

それで今の日本の報道なんかを見れば
アメリカが好景気でして株価も上昇しておりまして
経済絶好調なんてプロパガンダされるわけですが

一方英語圏なんかの報道を見るとその辺は
やはりこの米国債金利3%という以前危険水準と言われていた金利に
突入してることもありまして

大丈夫派と警戒派で議論がされている状況です。

それで私ゆうは予測とか予想とか予知とか
そういう類のことは一切しませんので

これからこうなったらこうなる確率が高い
これからああなったらそうなる確率が高い

という考え方を取ってるのですが

今日はその辺の米国債金利や株価なんかの関係で
これからの動きを考えて生きてみたいです！

特に重要なのがこの米国債金利3%ってのが
FRBにとって「制御内で想定されていたものなのか」
もしくは「想定外の異常な動きなのか」

っていうところの判断になりますね～

この辺は私みたいに世界中の株式を持っていたり
また金現物だったり不動産なんかに投資していたりする
投資家にとっては考えることは大事だと思いますので、

編集後記で！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【無料FX道場24時限目を公開！】

**億トレーダーが教える移動平均線で
初心者が知るべき見方と使い方とは？**

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

さて、この前新しい無料FX道場の
講義で野田式移動平均線の使い方動画を
みていただきました。

それで今号ではさらに詳しく
野田式の移動平均線の使い方講義発展の
24時限目をお送りしたいと思います！

それで、今回の講義は
移動平均線で短期、中期、長期を
使ってどのように判断して行くか？

というのを扱ってる動画で22時限目の
内容を理解した上での
話がされております。

それで今回の動画では
みんなが好きな
移動平均線のみを扱ってるものの、

野田さんもおっしゃってますが
「これだけでトレードするわけではないですよ」
ってことでして、

あくまで今まで学んだ
ダウ理論とかライン分析とか
エリオット波動とかを主としながら

その「補助」として

この移動平均線の判断
(初心者さん用なので名前は出てないけど
前に書いたグランビルの法則等)
を使うと良いよ、

っていう動画です！

正直この移動平均線の判断だけでも
トレード自体は成り立ってしまったりも
するのですが

今まで学んだライン、ゾーン分析や
ダウ理論、エリオット波動なんかに
移動平均線判断を補助として

加えると良いというスタンスです！

ということで是非土日のこの
時間を生かして動画で学んでみてくださいね～

【無料 FX 道場24時限目を公開！】

億トレーダーが教える移動平均線で
初心者が知るべき見方と使い方とは？
⇒ <http://fxdojo.online/refree/averaall/>

追伸…それであくまで移動平均線は
補助なんです、

この動画の中で野田さんが

短期と中期ではなく長期移動平均線が
視点のメインだよ、みたいな話されてる
わけですが

「なるほど、それはダウ理論の
小ダウばかり見ずに
大ダウも見るとい話と同じ意味ですね」

と、わかって欲しいわけです。

これが分かれば移動平均線の判断を
ダウ理論の補助として使えるので。

あとは最後のあたりで黄色で囲まれてる
枠の一番右側の
上昇トレンドへの転換と考えられる部分、

これはエリオット波動で二波終点で
上昇3波を捉える視点やラインの根拠も
重なるな〜とか、

そんな風に
是非今まで学んだ事も踏まえて
この新しい移動平均線の
動画を見てみてくださいね！

【無料 FX 道場24時限目を公開！】

億トレーダーが教える移動平均線で
初心者が知るべき見方と使い方とは？

⇒ <http://fxdojo.online/refree/averaall/>

日本語ではこういう金利についての記事とかも
ほとんどないというのが現状なんですね。

だから良くあるのが暴落前とか暴騰前とか
世界の大口投資家はそれらを想定できているんだけど

日本の個人投資家はそもそも情報自体がないから
想定も対応準備もしていないので
そのときに大損する人多い、ってのが

近年の歴史かと思います。

それで前置きはこの辺にして
早速件名の米国債3%の問題について
考えて生きたいと思います。

ちなみに以前から数年前から私ゆうの
メルマガを見ている人ならご存知の通り

一般的に言われているのが
「米国債金利が3%を超えたら危険水準」
ということでした。

が、今びっくりなことにもう3%台が普通にこの
1ヶ月足らずでなってきたわけですね。

この辺は新しい事態だからどう考えるか？というのは
大変大事です。

それで米国債の金利というと通常10年ものを言ったりしますが
この10年米国債は

「世界の全ての長期金利の基準点」です。

それで世界各国の銀行から企業への貸付金や
あとは住宅ローンとか民間の金利を決める指標と
なっておりますよね。

だから10年ものの米国債金利が上がっちゃうと
これ企業の調達金利とか

個人のローン金利が世界的に上がりまして

なおかつアメリカ政府の国債利払い額も
どんどん増加しちゃいまして

ここで不景気や金融危機や財政破綻に近づく
ってのが基本的な考え方です。

だから今まで米国債は3%が危険水準で
まあ2%台前後で推移するのが良いとされてました。

が、これが今や3%を越えてきてる事態が
結構長く続いていますよね。

今は3.23%とかです。

つい1年近く前はこれが2.3%だったわけですから
相当米国債金利が上昇しちゃってるんですね。

それで米国債の利回りってのは民間の需要と供給だけで
決まるわけではなくて

やはりFRBなんかの数字操作の対象でして

だから以前なんかは3%を越える事態が何度かあったのだけど

そのたびに3%以下に戻っていました。

けど、今回は9月18日あたりに米国債はいよいよ3%を超えたわけです。

それで私が注目していたのが
「この3%台は以前のようにFRBなんかが火消しするのかもしれないか
もしくは継続してしまうのか」

ってことですが

どうもこれが結構長く継続しちゃってるんですね。

これもう一般的には危険兆候なんだけど
不思議と日本のメディアなんかでは騒いでませんが

やはり長期視点では考えることが必要な現象なんです。

それで9月26日にFRB＝米連銀が短期金利を
2%～2.25%に引き上げるって決定したわけだけど

この短期金利の上昇に連動して長期金利も上昇しちゃってる。

それでここでまず知っておいてほしいのが
これもまた別PDFで再度補足で書いたほうがいいのかな

とも思うけど

トランプ大統領が中国といわゆる貿易戦争をやってるわけですけど
これは長期では中国を利する策って分かって
トランプ大統領はやっている

のですよ。

実はこの視点が日本だけじゃなくて
ヒラリー応援団であった英語メディアでも言われていないところ
だけどやはり長期ではその視点が正確性が高いと

私は見てますね。田中宇先生だけが日本だと書いてます。

え〜っと、これは多くの日本人の方が分からないでしょうが
トランプ大統領ってのは以前にも書いてるように

「ドル覇権を崩壊させる役割」なんですね。

以前に8月でメールで

「【2018年急速に進んでる
「世界経済の非米ドル化の法則」について考えていこう！】

っていう号も流しておりますからそれらを見ていただければ
分かると思います。

また日本との貿易戦争なんかにも言及しだしているのは
その辺が理由

<PDF> 日本との貿易戦争に言及したトランプ大統領
http://yuhfx1.com/pdf/trump_japan.pdf

それでトランプは中国と貿易戦争を仕掛けていると
一応表のメディアでは言われているのですが

大きく言いますとこれは
「トランプのドル覇権放棄戦略の一環」であると
言えます。

実際にこれから世界ではメルマガで長く書いてきたように
「世界経済の非米ドル化の法則」
通りドルが使われなくなっていく

というのが世界の長期トレンドでして
やはりそこで人民元とかロシアのルーブルとか
そういった新興国たちが台頭してくるんですね。

私はこの数年散々嫌がらせをされてそのたび
法律も交えて戦ってきたけど
結局やはりそのようになります。

それでトランプが中国に対してあえて
「けしかけた」

のだけどその結果どうなったか？

たとえば中国が今までは対米輸出で儲けたドルで
米国債を買ってくれたのですよ。

米国債を中国が買い支えてくれていたともいえる。

けど

この構造は最近崩れていてこれからは

中国が貿易戦争で対米輸出が減っていき
そして中国が米国債を買わなくなるわけですね。

それでどうなるかという米国債を買い支える中国が
いないのだから米国債の価格は下支えがなくなるから

米国債価格が下がれば金利は上昇しますが
ここで金利上昇が起こる、と言う感じでした

今の金利上昇はまあなんというか必然ではある
わけです。

中国は米国債を買わなくなってきております。

またこれから日本に対する貿易戦争をトランプが
この前言及しているけど

これが激しくなったらまた日本も米国債買わなくなって
金利上昇ということは考えないといけませんよね。

それで「マスコミの(プロパガンダ的な)説明だと」

この米国債の金利上昇は

「最近の米国経済は好調なので
だから過熱を防ぐために利上げをしているのだ～！

長期金利もアメリカ経済の活況を反映して
上がってるのだ～～！」

と説明してるんだけど

これは当然嘘ですよ。

単純に今回の金利上昇で危険水準と言われた
3%になっちゃってるのはもう日本とか欧州とか
あとは中国なんかの新興諸国が

米国債買わないからですよ。

ちなみに最近ではアメリカのFRBとか金融界ってのが
立場としては「ドル防衛」ですけど

その「ドル防衛」のために資金が新興市場諸国から
アメリカに流れるように、還流するように

誘導しているわけですね。

だから世界的にドル高で現地通貨が安くなっている
状態です。

この大きな流れは以前書きましたよね？

ちなみにテクニカル分析というのはこういう
大きな流れを理解してシナリオ立てて
そこで判断を混ぜ合わせて行うものなんです、本来。

総合力ってそういうことです。
(そっちのほうの精度上がるから)

ちなみにイギリスやら香港のファンドなんかは
それらの分析方法が主体ですが

日本のファンドでこれらの分析をやっているのは
野田さんが所属してるファンドみたいな

ほんのごく一部の優れたファンドのみなんだ
というのが最近私が知ってることです。

それで最近は新興市場からアメリカに資金の還流が
起こってまして

これでドル高で現地通貨安となっているのが
現状ですが

ここで為替のリスクヘッジのコストが大口で結構
上昇しているんです。

以前は日本とか欧州とか新興市場諸国は
為替のヘッジコストがそこまで高くなかったけど

最近は米国債の金利が上昇してるといっても
そこでヘッジコストがかかっちゃって

利益が相殺されちゃってるんです。

だから外国勢が米国債を買わなくなっている

これが今のトレンドです。

それで

「そもそもなんでFRBが利上げするのですか??」

と質問されて答えられる投資家って実はほとんどいない
のが現状なんですけど

今このPDF見てるあなたは答えられますか？

これ答えられないとやはり個人的には2020年代前半に
痛い目にあうと思ってます。

それでなぜFRBが利上げするのかといったら
簡単で

2008年のリーマンショックなんですね。
10年前の。

あの時メインで崩れたのは
株式市場では「なくて」

ずばり崩れたのが債券市場でした。

これが日本のメディアが報道していない罪深いところで

やっぱり金融市場の王様はFXとかの為替や株式市場ではなくて
債券市場なんです。

だから債券市場がくずれたら必然的に株式市場にも
波及するってことでこの債券市場が主、です。

それで、リーマンショックで債券市場の価格が暴落して
そのときに金利がバンバン跳ね上がったのですね。

これをなんとかジャブジャブにお金を発行して
それで債券市場に投入したのがQE＝金融緩和
っていうものの本当の意味です。

あれは米国債やジャンク債市場を守るため、です。

米国債市場が崩れれば当然ドルは崩壊ですから、
そのドルを守るため、ドル防衛のため、なんです。

それでそれをやりすぎるとドルが不健全になりますから
そこで今は利上げしてると。

それで、ここで気になるのが
FRBが2018年度はもう一度利上げして

2018年にもう一度、あとは2019年に3回利上げする
とっています。

ここでその通りに利上げされていく可能性は結構高いですよ。

それで大変奇妙なのが今だと
トランプと中国の貿易戦争とか色々言われている中で
これから実体経済がどうなるか本来は分からないのに

それも関係なく「利上げ続けていきます」

と言っていることです。

もうだから実体経済なんかは無視してしまっ、
そこでドルの地位をなんとか守りたくて

後5回で合計1%は利上げが必要だ、と
考えていると。

それで今回の金利上昇ってのは結構謎が多くて
金利が上昇するってことは債券相場が下落して
ることなんだけど

ただアメリカとか日本の株価は上がり続けて
るって謎はあるわけですね。

本来金利が上がれば企業の資金調達の金利が
あがります。

お金にも「値段」がありまして
ここで金利が上がるとお金の値段があがる
んです。

そして企業の資金調達の金利が上がりますと
当然企業の業績悪化につながるのだけ

それは株価に反映されていないわけですね。

それでこれはなぜか??

というと米国株と日本株両方やってる人は分かるでしょうが

米国株も日本株も実体経済の成長で上がってるわけではない
です。

一応2018年度の流れを分析していくと

米国株の上昇の主要因は米国企業の自社株買いが主で

日本は日銀のQE ジャブジャブマネーが株価押し上げの
最大要因ですね。

だからアメリカでも日本でもおなじことを
民衆は言っていて

「株価はあがったのに私の生活は全然良くならない」

なんですけど、これは

まあ金融構造を知っていれば当たり前っちゃ
当たり前なんです。

だってアメリカ企業が自社株買いしようと
日銀がQEで株価上昇させようと

それは実体経済の活性化には全然無関係ですから。
(それが関係すると言ってる人たちがいるけど
これは嘘なんです)

だからある種、プロパガンダ的にトリックのように
株価が上がっているのが実体なんだけど

しばらく企業業績の悪化傾向がさらに明確になると

そこで一度下がることはあるかもしれませんが
それまではこの「バブル」は膨張していくんですね。

だからはっきりと

「株価は実体経済と最早関係ない」

と言えます。

けどこれを言うことは結構当たり前なのに
勇気いることで結構嫌がらせされますからね

みんな気づいてるのに本当のことを言わないで
数年が経過した。

それで私は予測することをしないので
淡々と現在の現状を見るということを意識しているのだけど

今の金利上昇傾向ってのはアメリカの
リバータリアンの人たち、

例えば私が尊敬するロンポールとか
そういう一部の人たちでずっと言われていたことで
それがいよいよ具現化してきたってことなんですね。

それで今年の2018年までは日本と欧州が
ジャブジャブマネーのQEをアメリカの代わりに行って
それで世界的な低金利が維持されていたわけです。

流れとして分かりやすく書くと

アメリカリーマンショックで債券市場ヤバイヤバイ
⇒次にアメリカ FRB の QE で債券市場をジャブジャブマネーで
買い支え
⇒けどドルが健全性が失われる
⇒逆に利上げ

⇒けどそうしたら債券市場崩れるから
日本がアベノミクス、欧州はドラギノミクスで
日本と欧州が QE でアメリカの債券市場を買い支えた

これが本当の理解でありますけど
これは誰も教えてくれないから

自分で学習して知るしかないのが今の現状です。

マスコミは一切書かないですね、この辺。
ブルームバーグの英語圏の記者たちは分かっている
書いていないけど

日本の記者たちは本当に分かっているから
書いていないと推定できます。

ただこのアメリカの債券市場を買い支えていた
日本と欧州のジャブジャブマネーもですね、

来年2019年には終わっていくと。

その間はなんとかトランプ大統領が
規制緩和なんかを進めて

そこでバブル延命のための資金を作り出すとは
考えられますが

しばらく持つことも考えられるのですが

ただ全体的にもう「弾切れ」になってきてまして
金利も上昇傾向になってきてますね。

ちなみにトランプ大統領の思惑としては
やはり再選を意識してますから

私はトランプ大統領支持の人だけど

あの人は「粉飾の好景気」をなんとかまだ維持して
2020年秋の大統領選挙で再選したがつてます。

ただトランプとしては本来米国債の延命なんて
本当はどうでもよい、と思ってる思想がありまして

もっと言うと「ドル覇権を衰退させたい人」ですから
再選したら・・・

もう規制緩和なり減税で必死にジャブジャブマネーの
バブルマネーを作って延命させる動機もなくなるわけですね。

だからやはり仮に2010年代は持ったとしても
2020年前半あたりは相当気をつけないといけない

んです。

だから出口戦略と言いますけどね、
出口戦略をしっかり作っておくべきでして。

それでいつそれが来るかは分からないのですが
どうも最近の情勢を見ると

想定としては2020年代前半の前半あたり
だから2021年とか2022年あたりは
結構警戒すべきだなと私は見ております。

ちなみに、世界の覇権を作る人間からしたら
バブル崩壊なんかも意図的に作り上げるものですから

そういう視点も大事になるわけですね。

崩壊しちゃったじゃなくて
必然的に為政者はその辺分かって崩壊が来るってのが

歴史を調べての教訓だろうと思います。

それで10年以上経過して延命して
ようやく「第2のリーマンショック」で
2020年代前半は先進国が苦しむ事態が

やってくると私は想定してまして

実はこれ中国やロシアが今一帯一路だけではなくて
BRICS 開発銀行とか AIIB とかやってるのは

もうその辺想定してるんですね。

あの人たちは1年2年の短期で政治を見ませんから
最低でも10年、大体20年、30年以上のスパンで

戦略を組んでますから最近は人民元と金価格を
実質連携させだしてますが

これもその辺の準備です。

今の日本人は中国の株なんて誰も買いませんが
一部の変人はもうそういう長期の10年20年の視点で
新興株を買っていますね。

(もちろんアメリカに資金還流が起こるときに
価格は下がりますがそんな短期では見ていないわけ。
)

特に EU 離脱後のイギリス系のファンドは結構狡猾というか
そのような動きを最近明確に見せてますね。
このイギリスは悪いんだけどやはり最後は生き残るかもしれない。

それで次の2020年代前半あたりが確率は高そうですが
この辺の金融崩壊が来た場合ですね、

もうこれは「リーマンショックの比じゃない」

です。

これは脅すわけでもなんでもなく
日本もリーマンショックの時は幾分大変だったでしょうが

まだ当時はマシでしたけど

もうほとんどの人が打撃受けるのは間違いないでしょうね。

というのが10年以上バブルをずっと膨張させてきたものが
破裂しますから

となるとこれは結構被害は甚大です。

ちなみに私ゆうは中国株もやっているので
中国政府の戦略分析もしておりますが

中国政府はもう来たる米国のジャンク債市場崩壊を
織り込んでます。

これは習近平の戦いもあるんだけど、
中国共産党内でもですね、闘争があるんですね。

金融の部分で。

習とかはあれです「中国の株式市場のバブルを拡大させるな」
です。

一方他の派閥がいて「いいんだいいんだ、日本やアメリカみたいに
バブルをもっと拡大して一時的に儲けてしまえ」

という人たちがいるんですね。

この闘争で習は勝ってまして、
今はバブルをなんとか抑えています。

日本のメディアとかは中国がそれで苦しんでる??

みたいな謎分析をしています

実際はバブル膨張を第2のリーマンショックにあわせて
抑制してるのが本当の中国政府の金融戦略です。

ちなみに私は存じてるけど日本でも一部
ずっと利益を上げ続けてる本当にすごいファンドって
いて、

今は中小ファンドで数十億円運用だけど
これから巨大化を目指してる強いファンドって
日本にもあるんだけど

彼らは上記視点を分析してますよね。

これはニュースにもならないからみんな知らないけど
これが本当の世界ですね。

それで次の第2のリーマンがこれば
当然ですが今まで延命してバブルを膨張させた分

巨大な崩壊になりますけど

もうだから本当のところはアメリカの **FRB** だとか
金融界とかも

「どのように崩壊させるのか」という議論に入っていると見るべきです。

たぶん表のマスメディアでは「崩壊するのかもしれないのか」という議論を
してる段階ですが

おそらく今の情勢を俯瞰して分析してみると
もう **FRB** なんかの上層部はそうは見えていません

「どのように崩壊させるのが良いのか」の
シュミレーションに入ってますね。

だから「突然の誰も想定していなかった
金融危機ではなくて」

「制御された崩壊」ですよ。

これを田中先生が「制御崩壊」とかかれていて
良い表現だなと思いましたが

金利上昇でいずれもたらされる崩壊を
制御可能な崩壊としてコントロールしていくのか

もしくはもう完全にコントロール不能で大崩壊させるのか

というこの辺の議論対立が実際はあるんだ
ってことですね。

それで国債には長期債と、短期債があります。

また米国債とジャンク債の金利差ってのもあります。

それでいわゆる「利上げ」ってのは短期債のことで
実は長期債はコントロールできないと言われてるんだけど

短期金利をゼロに維持するって今までQEの時に
やってきたのはコストがかかります。

ジャブジャブマネーしてまたドルの不健全が進む。

だから短期金利は2%から3%が望ましいと考えるはずなんですね。

ただ一方長期金利が高いとこれは上に書いたように
政府と民間が利払いで破綻する可能性が上がります。

だからなるべく長期国債や短期国債の金利差を小さくしたいですし
また米国債やジャンク債の金利差を同じく小さくしたい
ってのがFRBの現在の動機としてありますよね。

ただこれ上記の短期長期の金利差や
米国債やジャンク債の金利差が小さいと

金融危機がおきやすいとも言われます。

だから金融システム全体のリスクが最近結構上がってます。

そんな中JPモルガンなんかはこれから
米国債10年は4%とか5%に上がっていく

というシナリオを言い出していますが

ここではもう国際市場が既に2020年代の不況を
織り込みだしてることも言いました。

それでこのJPモルガンのディーモンが言った内容は
大体今はその通りに進んでいて

「金利は上昇しても株はあと2、3年はなんとか持つ」

というものです。

ただこれ10年ものの米国債の利回りがもう5%とか

行ったら相当ヤバいですからね、

こうなるともうアメリカ政府の国債利払いなんか
できなくなるんですよ。

21兆ドルの財政赤字をアメリカ政府は抱えておりまして
史上最高額となっておりますが

こんなのもう利払いだけで財政が圧迫されます。

これはだから今後金利が4%とか5%ってもうヤバイ話なんです。

それで既にアメリカでは大企業と大金持ちは儲かってますが

実際は貧富格差は拡大しているし、

中産階級は貧困層になっているし、

社会保障の支出は増えているし

もう頭回らない状況になっているわけです。

オバマ時代の毎年の赤字総額は7000億ドルだったけど
今や1.3兆ドルで倍増してますね。

それでアメリカ政府の財政赤字が増加したってのは
すなわち国債発行額が増加しているということで

金利上昇の要因になります。

それで今はFRBは利上げでジャブジャブマネーのQEを
再度資産圧縮している状況で

手持ちの債券を放出して、そしてドルを吸引してるわけですが
こうなると市場はドルが不足します。

債券が市場に増えてドルが減るってことは
すなわち債券金利はあがるんですけどね

けど金利上がると、これはアメリカ政府の財政がさらに
悪化するんです。

利払いしないといけませんから。

んでこの後に想定できるのがやはり
アメリカのデフォルトというみんなが考えられない事態なんだけど

実はこれ、トランプが選挙戦前に言っていました。

「俺は借金王だった。だから米国債はデフォルトすればよい」

という内容を・・・(笑)

実際はトランプは英語で発言した内容を日本語に直訳すると
「債務の再交渉をすればよい」と言っていたんだけど

これはいわゆるデフォルトって意味なんですけど

実はトランプが言ってる事とやってることというのは
長期では一致してるんですね。

怖いですよ、けどこれはさすがにマスコミも書けないんですね。

だから、リーマンショックの時も多くの人が
急激な暴落で文字通り死んだわけです。

けど準備していた人たちは助かったんですけども。

それで今回の金利上昇を見ると

「3%に上がったちゃったではなくて」

「アメリカ当局が意図して引き起こしてる」

という見かたが成り立ちますよね。

日本や欧州や中国なんかの外国勢が米国債を買わない
となってるわけなんですけど

ドル高で為替ヘッジコストがかかって米国債で儲からないから

買わないとなっていますが

このドル高とか新興市場危機とか米中貿易戦争なんかは
実際はトランプが意図的に引き起こしているわけです。

どうみても、今の金利上昇はトランプが
意図的に作り出したと言えます。

だからあのトランプは怖いんですよ。

あれはめちゃくちゃ頭いいんです。

自分が政治戦略で何かをぶちまけたら
債券市場で何が起こってどのように金利上昇が起こるか

も全部計算してやっています。

それで今回の金利上昇において

重要な論点の対立があって

「制御しての崩壊をさせようとしているのか」

「もしくは金融危機で制御不能で崩壊するのか」

の論点の対立があるんだけど

今回は制御崩壊である要因が結構見えてるということですね。

だから主点は

「米国債市場がいつ崩壊するのか」でして
崩壊するのかわからないのか、ではないんですね。

崩壊はするんだけどいつなのか、

がもう既に論点として注目されだしているけど

この辺を考えていくのが大事だと。

それでそれを見極めるためには
明日から相場があるんだけど

10月8日から12日までの期間で

米国の株とジャンク債が急落した場合は
これ金融危機のシナリオで対応しないといけないけど

急落しなければいわゆる「制御崩壊」でして

今年中の金融危機発生はなく
トランプにコントロールされた市場ですから

ショックは2020年前半までは起きないという視点になります。

だから世界中の投資家は明日からの金融市場の動きを
かなり見ている

そこでどう動くかに対応、修正をしようとしている
ってことですね。

それで上に書いたのだけど
本来長期金利ってのは統制できませんでした。

だから短期金利を利上げすることはできても
長期金利ってのは市場の需給で決まるので

これは統制できないってのが今までの常識だったんですね。

ただここ最近はその辺も変わってきてまして

長期金利は幾分コントロールできるようになってきている
わけです。

FRB なんか統括している金融システム総額が大体

182兆ドルあります。だから2京円くらいですね。

それで実体経済は？というと大体80兆ドルです。

だから実体経済の2倍以上、金融当局が統制できる

金融システムの総額があるわけでした

まさに「バブルで動く世界」なんです。

以前はここまでバブルが膨らんだことはありませんでしたから
実体経済に連動して長期金利も連動すると考えられたのだけど

最近は違いまして、

実体経済の倍以上、虚構のカネ＝バブルマネーがありますから

ここで長期金利もどうも動かせるようになっていると。

それでバブルは膨張する一方ではありますが

ここでトランプ大統領の視点も考える必要ありまして

トランプとしては短期中期では、金融システムを延命したいと。
株価上昇を彼の人気の一つの指標としてますから。

けど長期で彼がやりたいのはドル防衛勢力を撃退すること
すなわち米国債をデフォルトさせることでもあるんだけど

この辺がトランプのジレンマですよ。

この辺の攻防で今は動いているということです。

それで今までは株よりも債券が重要な市場だったんだけど
だから今までは債券市場が崩壊しそうになったら

株価の急落を容認して、そして投資家が株を売って
国債を買うように仕向けるってのが王道だったんだけど

これも最近はお上りトランプが「株価上昇してるだろ！
ほら俺の経済政策が成功してるんだ！」

とやっていますから

債券より株価のほうがトランプとしては大事な感じでは
ありますよね。

また日本もおなじで安倍が株価上昇を政権人気の基盤と
しておりますが
これと似ています。

ただ日本の場合にはもう株式市場の半分近くを日銀が
保有していますから

これは相場操縦であって社会主義の体制なんだけど
もはや誰もそれを指摘しなくなっていると。

だから最近の傾向としてはアメリカも日本も
米国債が急落しようと株価だけはできるだけ
下げないように動いています。

この動きが来週見えるかどうかは大事で
来週株価が下げ止まって反発したら

米日政府の思惑通りってことで
トランプは「ほらおれの経済政策をみよ、株価は復活したぞ」
となるわけでした

そしてトランプは中間選挙勝利できると。

だから崩壊も制御しながら崩壊させるという流れがどうも
米日の中で極秘に存在する可能性はありますが

ここで株価だけは大事にしていると。

といってもそれは短期中期のことなので
結局日本はQEをやめることになるので

QEに支えられてきた株価の大幅下落を容認せざるを得なくなりますよね。

だからオプションなんかやってる人は225オプションなんかの
プット買いなんかで

中間選挙後には
損小利大を狙う戦略で
入れていくのもありっちゃありだと私は思います。

それで崩壊を制御するという制御崩壊ですがやはり
限界はあって

アメリカの株価は企業の自社株買いがないと
上がりませんが

自社株買いってのは企業が低金利で社債を発行するんです。

ただここでジャンク債の金利が上がっちゃうと
自社株買いも減りますから

株価急落となりますから

やはり崩壊を制御するのも限界が見えてきてると。

なので現状としてはあの手この手で延命してる状況ではあるのだけど

もう限界がかなり見えてきているので

短期中期で利益抜くことはできるんでしょうけど
長期的に見た場合、

もう長期金利も上昇していますから、
バブル膨張にも限界が見えてきているということですね。

それでやはりバブルは必ず絶対に崩壊するというのが
歴史の教訓ですから

そろそろ本格的に準備しても良い段階に入ってきてるな
と言う感じですよ。

ということで市場は健全で
アメリカも日本も好景気なんて報道はされていますが

実際は債券市場の動きを見ると
限界が見えてきているのは否定できない事実で

なんとか2010年代はもっても
2020年代前半中には

第2のリーマンショックで世界秩序自体が変わる動きが
想定できますから

早く準備しておくのは大事ですね。

それで上記の内容を理解して
自分の投資に落とし込むのも大事で

私なんかは株なんかは正直現状含み益が
かなり出てますが

全く楽観してませんで、暴落があっても
対処できるように準備はしているわけですね。

株や債券が暴落したときに上がるものを
同時に保有するというのは大事です。

またFX FOREXに関して言いますと
短期中期で利益が計上されていても

これは昔よくありましたが
流動性がなくなると

証券会社でストップが機能しなくなります。

現在はなんとなく上記の制御崩壊の段階をたどってるので
みんな気が緩んでるとは思いますが

正直何が起こるかわからないのが現状ですから
それが金利3%の意味でもありますから

となると証券会社選択もかなりしっかりやらないと
いけないんですね。

ストップが機能しなくなるってのは
近い記憶だとスイスフランショックがありました

債券市場が機能不全に近未来になる場合、
まず国内証券の大多数はストップロスが効かなくなるのは
想定できます。

だからストップ入れていてもですね、
決済されないで含み損が膨らんで、

追証が出る人がおそらく続出するだろうと想定してます。

だから今のうちに海外証券なんかでゼロカット業者を
使い出すのは大変重要で

2020年代(はやければ2010年代だけど)
の崩壊に備えておくってことですよね。

資金管理でも例えば100万円の人で
国内証券で追証ありのところ使っていると
へたしたら

上記の事態が起こればレバによっては
一気に1000万円前後の
追証出ることも考えられますが

ゼロカット業者ならば証拠金を10%入れるならば
最悪100万円のうち
入れた証拠金の10万円のロスで済みます。

(その代わりその海外証券会社が破綻したりする)

今の米国差金利3%というのはそういうのも
織り込んで資金管理やポートフォリオに落とし込まないといけない

というメッセージでありますので

この辺は楽観しないことが大事かなと私は思います。

この楽観しないことで救われたことが過去何度か
ありましたが

それが今後大事になるでしょう。

結局「負けないこと」が大事で
利益が出ていても楽観しないで
最悪のシナリオも想定しながら

着実に資産を大きくしていくのが大事ですね。

また米国株なんかも上がっているものの
上記のように政治的思惑がかなり絡んで上がってるものなので

上記の制御崩壊だとしたら2020年代前半がキーになるし
単純に金融危機なら2019年代とかになります

意外に楽観できる状況ではないので

結局バフェットがよく言う「負けないこと」の意識が大事なので
利益率は減るもののヘッジに注力するのも大事でしょう。

では！

追伸……また株とかで言うと
短期で売り買いする人ならば
今の制御崩壊のシナリオの中で政治の思惑で
上がったりは考えられるからそういうトレード・投機もありかもですが

長期で株を保有してるような長期投資家は
個人的には新興国の株は重要になるのだろうと
考えてますね。

中国の上海総合は2800ポイント台で停滞しておりますが
短期中期だとイマイチなんだろうけど
長期で見る場合可能性があると考えます。
(共産党政府がバブル膨張を米日とは逆に押さえ込んでるため)

一方米日の株は短期中期で見た場合は
確かに今含み益が上がってるけど
長期の5年10年以上の単位の投機ではなく投資で考える場合は
ちょっと怖いんですね。

一度崩れたらバブル膨張、資産総額を増やしてしまった分
復活まで相当時間がかかるとかと思われまます。

一方新興国は新興国リスクで一度アメリカに資金還流が起こり
そこで株価低迷は起こるだろうけど
その後の復活が長期で臨めるのであり、って感じで
私は分析してますね。

それで今まで先進国株で利益出した人たちが
総負けする事態は意外に近年中に起こると思われまして

おそらく今変人と言われてるような投資をしてる人が
そこで成り上がってくる未来は見えてきてますので

マスコミに踊らされず自分で考えるというのが
これから大変大事になるでしょう。

では！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【無料 FX 道場24時限目を公開！】

億トレーダーが教える移動平均線で
初心者が知るべき見方と使い方とは？

⇒ <http://fxdojo.online/refree/averaall/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆